

知を活かす科学・技術政策にむけて

榎木英介

NPO法人サイエンス・コミュニケーション理事
サイエンス・サポート・アソシエーション代表

若手研究者のキャリア対策の実情

- 若手の生の声が伝わっていない
 - 成功した研究者という「フィルター」を通して
 - 研究ではない職業=敗者
 - 先入観(使えない)
 - 自己責任



失業対策的施策



プライド
ずたずた



研究に固執
40歳でもポストドク...

国力低下



失望感

最悪の悪循環



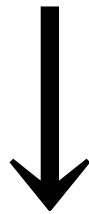
研究力低下

理科離れ



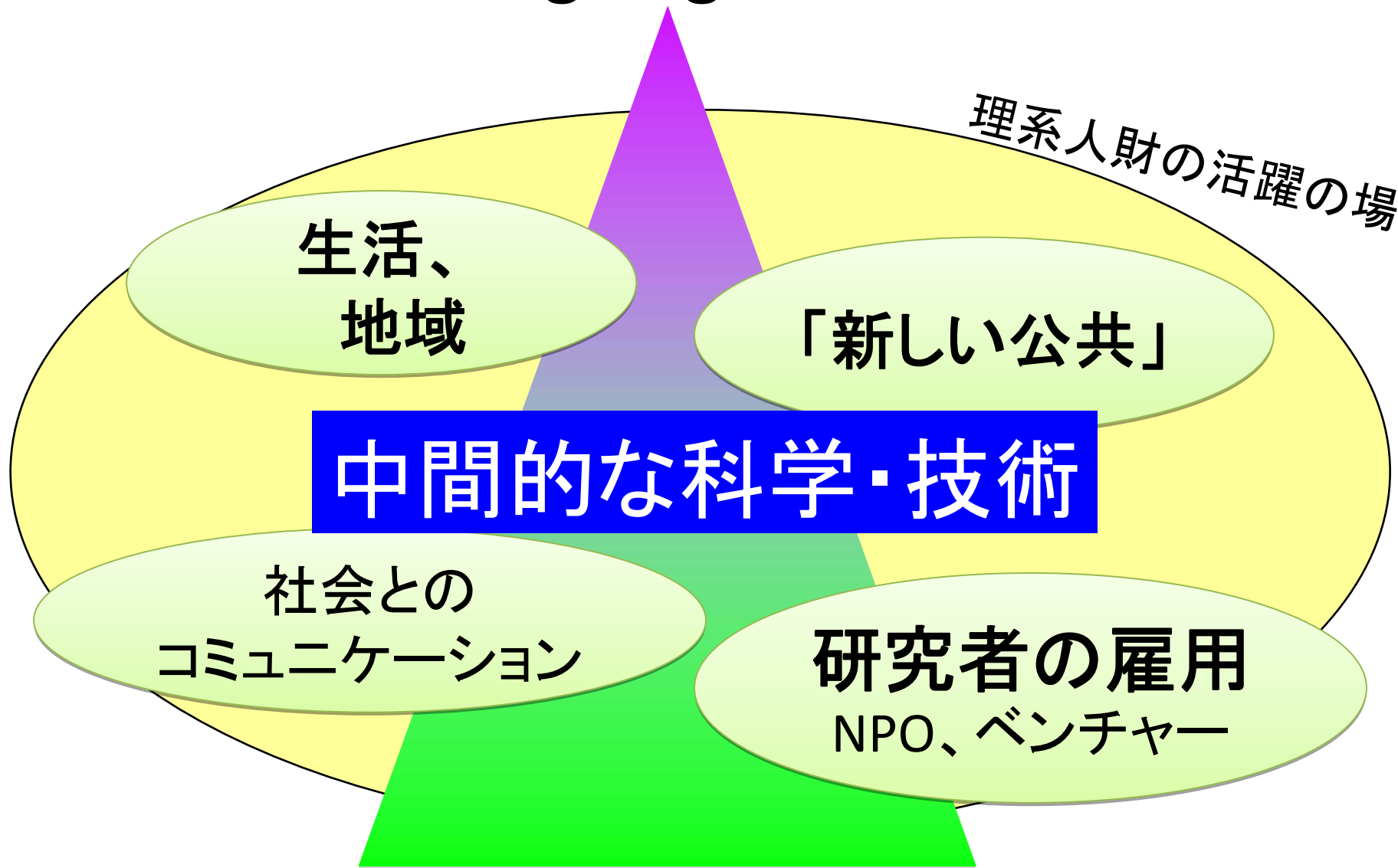
発想の転換を！

博士、ポスドク



公的な財産（人財）

“Cutting Edge” な研究 →現在の政策の焦点

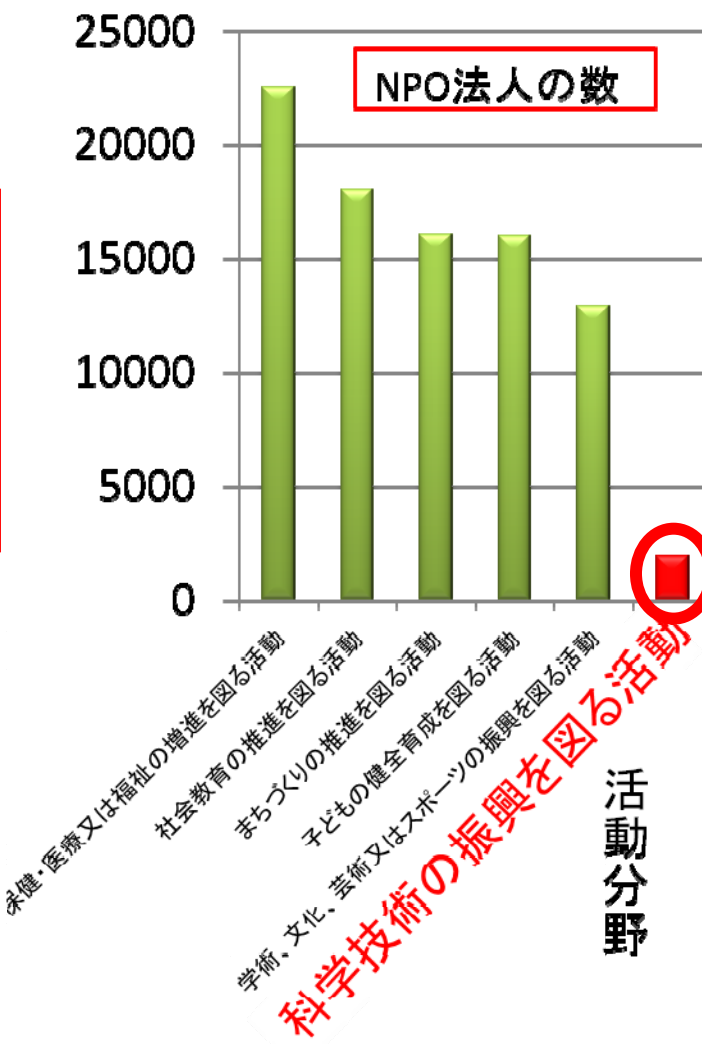


事実としてほぼ確立した科学 →理科教育

科学技術関連NPO

政策と研究現場の交流を担う
 科学・技術と社会の交流を担う
 科学・技術人財の活躍の場

| | アメリカ | 欧州 | 日本 |
|------------------------|--|--|-----------------------------------|
| 科学コミュニティ | National Academies | 各国科学アカデミー | 日本学術会議 |
| 分野横断的自発的研究者NPO(市民も参加可) | AAAS (全米科学振興協会) | Euroscience British Science Association | |
| 市民との交流(年次大会) | 2月開催 | あり | 11月サイエンスアゴラ(JST主催) |
| 中小規模のNPO | 憂慮する科学者同盟 National postdoc association 他多数 | CaSE Observa 他多数 | 日本科学者会議 サイエンスカフェ <u>少ない</u> |



活躍のスイッチを押す政策を

情報

- 最新論文が自由に読める
- 機関リポジトリ、オープンアクセス

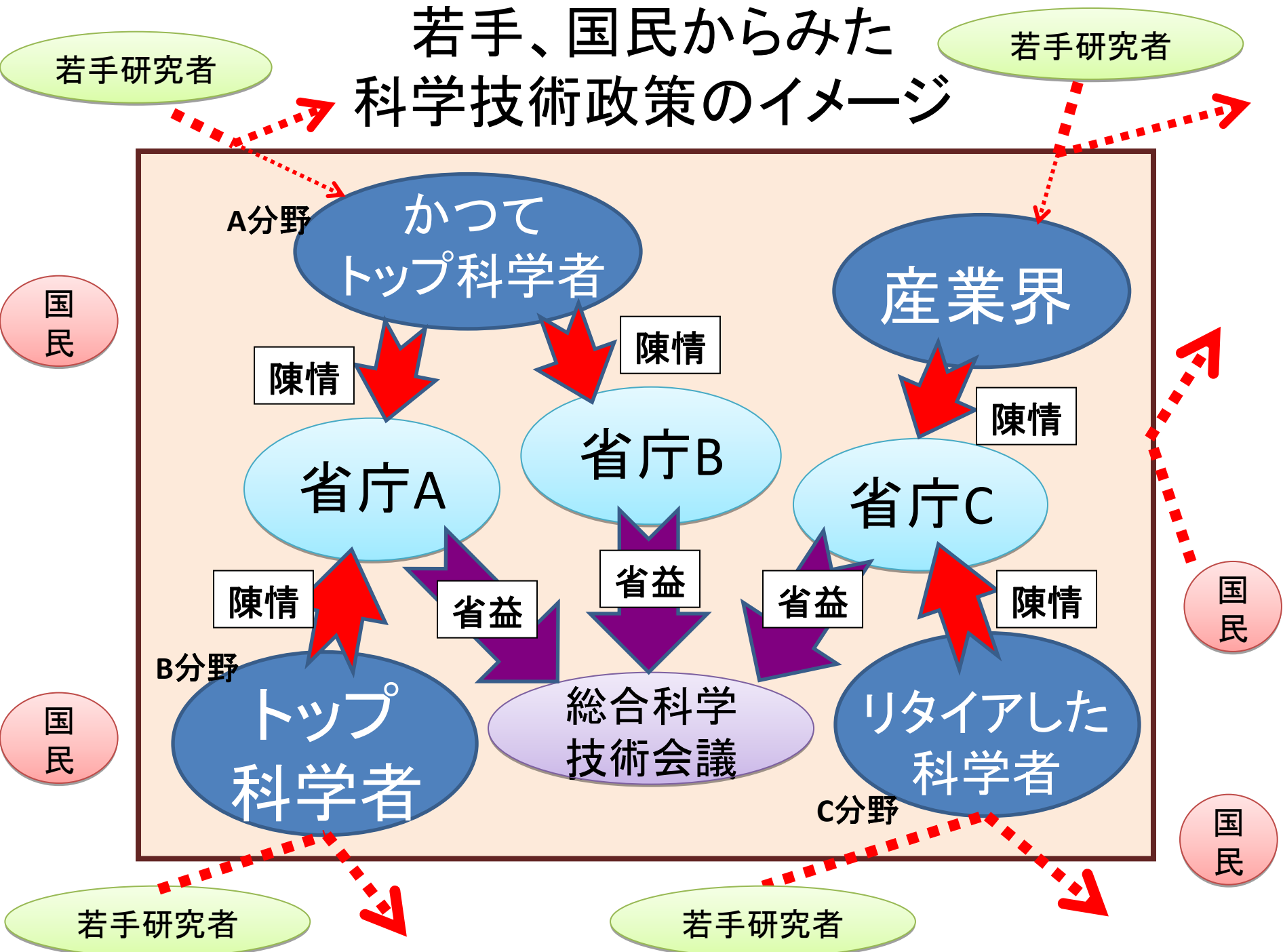
場所

- 研究できる場、拠点
- 大学、図書館、科学館
- 貸し研究室など

人財

- 大学と社会を行き来
- 年齢、性別等によらない評価
- 専従規定の緩和

若手、国民からみた 科学技術政策のイメージ



科学技術政策に望むこと

- **フラット**で**オープン**に
 - 関係者が等しく意見が言える
 - Public engagement(市民参加)
 - 政策決定過程の可視化
 - 研究現場と政策の人財交流

未来(公益)のための政策を！